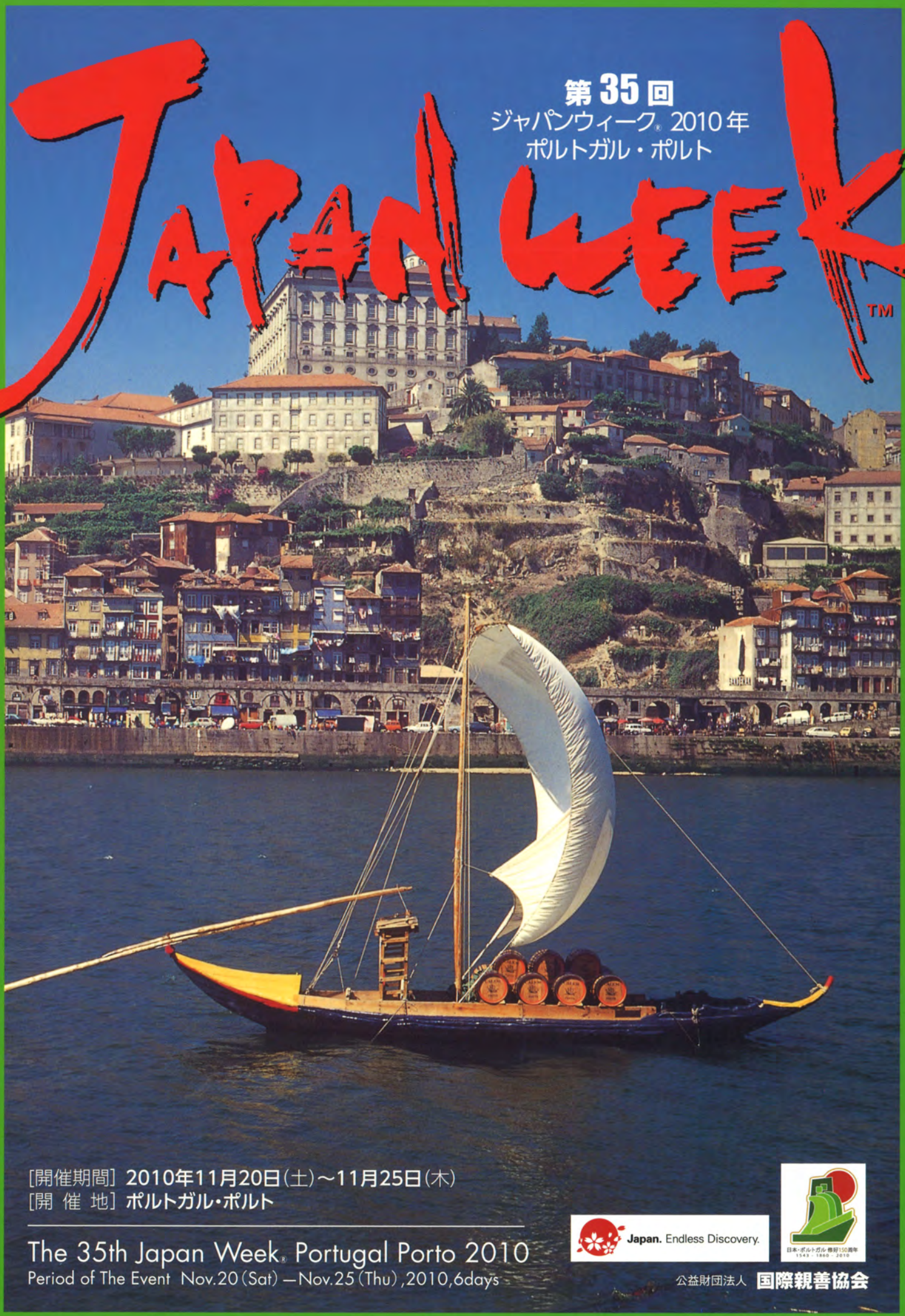
JAPAN WEEK™

第35回
ジャパンウィーク® 2010年
ポルトガル・ポルト



[開催期間] 2010年11月20日(土)～11月25日(木)
[開 催 地] ポルトガル・ポルト

The 35th Japan Week® Portugal Porto 2010
Period of The Event Nov.20 (Sat) —Nov.25 (Thu) ,2010,6days

Japan. Endless Discovery.

日本・ポルトガル修好150周年
1543 - 1860 - 2010

公益財団法人 国際親善協会

ごあいさつ

ポルトガルの国名の元となり、リスボン市に次ぐ第2の都市であるポルト市。ドゥロ川沿いに栄えたこの町は、中心部がユネスコ世界遺産に指定され、美しい街並に歴史を感じる。そのポルト市にて日葡修好150周年記念事業として、2010年11月20日から11月25日までの6日間にわたり「第35回ジャパンウィーク®2010年ポルトガル・ポルト」が開催された。

さまざまな文化活動を通して日本の素顔を紹介する市民レベルでの国際文化交流を行うこの事業に、日本全国及び現地から総勢48団体・920名におよぶ方々が参加されました。

ポルトガル側からはオープニング・フェスティバル、舞台公演そして展示・実演に多くのご参加をいただいた。現地参加型の「双方向の交流」(日本側の参加者だけでなく、ポルトガル側からも参加していただき「交流」する)を大きなテーマとして、両国民同士のきずなを深めることができた。

オープニング・フェスティバル、舞台公演、展示・実演、そしてさまざまな訪問交流プログラムが6日間にわたり行われ、ポルト市民はじめポルトガル国民が多数来場し、大盛況であった。ジャパンウィーク®は感動・かけがえのない体験・草の根交流の6日間であった。

目次 CONTENTS

会長挨拶／実行委員会名簿 …… 1
イベント概要 …… 2
事業の実施概要 …… 2～3
オープニング・フェスティバル …… 4
オープニング・レセプション …… 5
開催地　周辺地図 …… 6
劇場公演 …… 7～11
展示スターティングセレモニー …… 12
展示・実演 …… 13～18
表敬訪問 …… 19
交流プログラム …… 20～26
西日本友好親善訪問団 …… 27
野外宣伝パフォーマンス …… 28
街での宣伝・ボランティア一覧 …… 29
新聞・雑誌記事 …… 30～32
開催地の現地の様子(編集後記) …… 33

参加団体一覧

青森県　自然食レストラン　洋望荘／野菜細工

山形県　米沢藩古式砲術保存会／火縄銃

栃木県　津軽三味線貢清世会／津軽三味線
茶道文化継承　和育いちご会・日光会／茶道

埼玉県　世界盆踊り連／盆踊り

東京都　(株)アートクロス／美術品、(株)OPA北村温子／七宝焼き、きものレディ着付学院／着物、剱伎衆かむゐ／剱伎、(株)書道ジャーナル研究所／書道、全日本婚礼美容家協会／婚礼衣装、早稲田大学書道会／書道

富山県　瀬尾学園　総合カレッジSEO／琴・料理・茶道

岐阜県　CENTRE DE DANSE DE OGAKI／バレエ

愛知県　中部きもの研究会／着物、草木染工房しかり／草木染、愛知県古銃研究会・長篠設楽原鉄砲隊／火縄銃

静岡県　浜松花蝶ちん／ちんどん、オカリーナ・デュオ／オカリナ、松濤流／いけばな、煎茶道静風流／煎茶道

京都府　京都美山詩画集／詩画集
ポルトガル刺繍・糸のパッチワーク／刺繍、京都光華高等学校　神楽和大鼓部／神楽、京都造形芸術大学　瓜生山舞子連中／神楽

奈良県　花柳アカデミー／日本舞踊

大阪府　西日本友好親善訪問団／交流

和歌山県　スタジオぽこ・あ・ぽこ／タップダンス

岡山県　備州岡山城鉄砲隊／火縄銃

島根県　さだ 須佐太鼓団／和大鼓

長崎県　長崎市／写真展、長崎大学／表敬訪問、長崎いけばな連盟／華道、長崎県立長崎東高等学校　吹奏楽部／吹奏楽

熊本県　天草市・社団法人天草宝島観光協会／ハイヤ踊り

鹿児島県　2010年ポルトガル親善使節団(種子島火縄銃保存会)／火縄銃

ポルト市　ポルト日本語補習校／Academia De Danças E Cantares Do Norte De Portugal／Drumming Grupo de Percussão／Kendo Clube do Porto／ESMAE／Academia Pirmin Treku／ポルトガルMOA財団(Fundação MOA de Portugal)／Ms. Benvinda Fraga ARTEAR／Academia Contemporanea do Espectacule

見学団体　社団法人 日本ポルトガル協会、長崎名誉領事派遣団、ジャパンウィーク® 海外セミナー

合計 **48 団体**

会長挨拶

愛知和男　第35回　2010年ポルトガル・ポルト　日本側実行委員長
前衆議院議員　公益財団法人　国際親善協会会長

第35回を迎えましたジャパンウィーク®が、日葡修好150周年記念事業としてポルトガルのポルト市において開催され、日本側参加者および現地関係者の皆様のご協力のもと無事終了することができましたことを心より感謝申し上げます。

舞台公演、展示・実演、そしてポルト市内の学校や老人ホームへの訪問交流や各種交流プログラムにおいて両国の友好親善の輪を幅広く展開することができました。さらにポルト市民の方々の心温まる観覧・見学・交流に深く感銘を受けた次第です。又、日本国政府より伴野外務副大臣をはじめ、在ポルトガル日本国大使館の四宮特命全権大使、新井公使にもオープニング・レセプション等にご出席いただきました。この場をかりて御礼申し上げます。

このジャパンウィーク®開催を機に益々日本・ポルトガル両国の絆と友情が深まり、様々な交流が続けられることを願ってやみません。今回のジャパンウィーク®に遠路ポルトガル・ポルトまでお出かけいただきました日本側参加者の皆様方の民間親善大使としての熱き思いとそのご活躍、そして、現地側関係者の皆様のご支援なくしてジャパンウィーク®は成り立ちませんでした。改めて敬意を込めて、深く御礼申し上げます。

最後に、多大なるご支援、ご協力をいただいたポルトガル側および日本側関係者の皆様方そして連日連夜にわたりジャパンウィーク®の運営に携わっていただいたボランティアの皆様方に深く感謝申し上げるとともに、今後もジャパンウィーク®を発展・向上させ、開催国との友好と国際親善の輪を広げ、世界の恒久平和の輪を築くことを祈願して挨拶とさせていただきます。

実行委員会名簿

日本側

実行委員長	愛知　和男	前衆議院議員、公益財団法人国際親善協会 会長
名誉顧問	四宮　信隆	在ポルトガル日本国大使館 特命全権大使
理　事	兵頭　誠	日本興亜損害保険株式会社 代表取締役社長 首席執行役員 公益財団法人国際親善協会理事
理　事	上川　裕秀	株式会社日本航空インターナショナル専務執行役員 公益財団法人国際親善協会理事
理　事	丸尾　和明	株式会社日本旅行代表取締役社長 公益財団法人国際親善協会理事
理　事	今村　忠雄	社団法人日本海外協会会長 公益財団法人国際親善協会評議員
事務局長	坂牛　研一	公益財団法人国際親善協会常務理事

ポルトガル側

実行委員長	Rui Rio(ルイ・リウ)　ポルト市長
理　事	Luís Valente de Oliveira（ルイス・ヴァレンテ・デ・オリヴェイラ）　ポルト市議会議長
理　事	João Carlos Marques dos Santos（ジュアン・カルロス・マルケス・ドス・サントス） ポルト大学総長
理　事	José Ramos（ジュゼ・ラモス）　ポルト日本名誉領事
理　事	Aureliano Veloso（アウレリアーノ・ヴェローゾ）　前ポルト市長
理　事	Maria João Vasconcelos（マリア・ジュアン・ヴァスコンセロス） ソアーレス・ドス・レイス　国立美術館長

イベント概要

開催都市　ポルトガル共和国　ポルト市
開催期間　2010年11月20日(土)～25日(木)　6日間
開催規模　現地参加者　920人
現地側参加　見学者　約16,000人
日本側主催　公益財団法人 国際親善協会
開催国側主催　ポルト市
後　援　在ポルトガル日本国大使館、経済産業省、国土交通省、外務省、文部科学省、在日ポルトガル大使館、ポルトガル政府観光局、日本政府観光局（JNTO）、独立行政法人国際交流基金、日本貿易振興機構（ジェトロ）、財団法人自治体国際化協会、財団法人地域伝統芸能活用センター、社団法人日本ポルトガル協会、社団法人日本海外協会
助　成　財団法人双日国際交流財団
協　賛　株式会社日本航空インターナショナル、日本興亜損害保険株式会社、株式会社みずほコーポレート銀行、西日本旅客鉄道株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、株式会社日本旅行
目　的　「ジャパンウィーク®」は、日本の生活文化、芸能、美術、音楽、ファッション、スポーツ、経済等を通じて日本を紹介するとともに、開催地住民も参加し、市民レベルの文化交流により、相互理解・友好親善を図る。この「ジャパンウィーク®」は、各会場での公演、展示、実演などによって構成されているが、一方通行の文化紹介にとどまることのないよう、開催地の人々の参加を促し、心と心がふれあう交流を実現できるワークショップ等のプログラムづくりにも力を入れている点にその特徴がある。

事業の実施概要

1．ジャパンウィーク®運営組織について

当事業は日本・ポルトガル両国に各々実行委員会を組織し、日本側は愛知和男／公益財団法人国際親善協会会長が実行委員長を務め、ポルトガル側はルイ・リウ　ポルト市長を実行委員長とし、両国事務局互いの協力のもと、開催会場・施設の決定や告知PR活動・イベントの取り纏めなどを推し進めた。特に開催会場・施設については各実施予定プログラムの主旨をポルト市に理解していただき、主なイベント会場を市の中心部にご用意頂いた。

日本より都合5回にわたる現地打合せ、電話および電子メールでの情報交換・諸々の折衝を行い相互の協力体制を着々と築き上げ成功へのステップを確実なものにして行った。

日本側では2009年の夏より全国に招致活動・告知活動を開始し、並行して関係資料の作成・説明会の実施などを行い、参加団体応募の後は各団体と参加プログラム、荷物の輸送の打合せ、各公式行事やイベントプログラムのアレンジなど数多くの業務をこなしてきた。

2．広報・告知について

現地側広報・告知に関しては、ポルト市、ポルト市観光局そしてコーディネーターの皆様にご協力いただいたおかげで観客動員ができた。下記が関係各機関にご協力いただいた広報・告知活動である。

❶ メディアでのプロモーション

ウェブサイト、新聞を中心としたPR展開を実施していただいた。

1．ポルト市のウェブサイト

ポルト市のウェブサイトに、当協会のウエブサイトをリンクすることも含めてPRいただいた。

2．雑誌、新聞

ポルト市発行の雑誌「PORTO sempre」の7月号、同じく文化情報イベント冊子「i Porto」の10月号のイベント情報欄にはジャパンウィーク®の予告の記事が掲載され、雑誌Notícias Sábadoの2010年11月号とJardinsの2011年1月号には、ジャパンウィーク®期間中の料理交流の記事が掲載された。新聞については、ポルトの新聞JORNAL DE NOTÍCIAS VIVA+およびmaiahojeがジャパンウィーク®期間中のイベントの記事を掲載していただいた。

3．テレビ

＜TV Porto＞＜Porto Canal＞＜RTP（国営チャンネル）＞にて11月1日～7日までの間、夕方～夜にかけてジャパンウィーク®の告知がなされた。また、ジャパンウィーク®開催後、展示会場には＜TV Porto＞等の取材があった。

❷ **PRツール作成およびその配布**下記は、11月第1週からポルト市内にて展開された。

告知用リーフレット（A4サイズ）……15,000枚
イベントプログラム（15cm × 21cm）……5,000部
街中での告知用巨大ポスター（8m×3m）…12箇所
街中での告知用ボード ……80箇所
ポルトの学校、子供たちに配布のステッカー …10,000枚
街中での電子ビデオボード ……4箇所
ポルト市内運行のバス、列車の内側でのポスターによるPR
・バスの内側……200枚
・列車の内側……200枚

3．各イベントプログラム

ジャパンウィーク®の大きなテーマは「双方向の交流」であるが、日本側のみの参加だけなく舞台公演、展示・実演についてポルト側からの団体にも参加していただき、出演者、展示者間の交流が深まるようイベント作りをした。イベントは11月20日（土）の午後にロザ・モタ・パビリオンにてオープニング・フェスティバルが開催されジャパンウィーク®の幕があけた。その後、ポルト市庁舎でのオープニング・レセプション、リボリ劇場での舞台公演と続いた。舞台公演は23日（火）を除く25日（木）まで毎日開催された。展示・実演は21日（日）の展示スターティング・セレモニーに始まり、25日（木）まで実施された。交流プログラムの学校訪問については6団体、老人ホームについては4団体が参加し、音楽交流プログラム、舞踊交流プログラム、バレエ交流プログラム、草木染交流プログラム、刺繍交流プログラム、料理交流プログラムにはそれぞれ1団体づつ参加し、各団体ともに肌と肌をふれあう心のこもった草の根交流に大感激していた。

毎年参加いただいている西日本友好親善訪問団は、交流会イベント、鉄道シンポジウムおよびポルトナイトにて大いに親善交流の輪を広げて貰った。

4．在ポルトガル日本国大使館のご協力とボランティアの活躍

特に今回のジャパンウィーク®が大盛況に終えることができたのは一重に公式プログラムにご臨席をいただいた在ポルトガル日本国大使館の四宮大使をはじめ大使館の皆様のご協力による賜物である。

今回も数多くのボランティアの方々に協力して頂いた。ボランティアについては、ポルト在住のポルトガル人学生、日本人留学生、在留邦人など幅広い方々にご協力いただいた。ジャパンウィーク®・スタッフの一員として朝早くから夜遅くまで本当に頑張っていただいた。ボランティアの方々の協力無くして、ジャパンウィーク®の成功はありえなかったと言っても過言ではない。

5．ポルトにおけるスタッフおよびご協力いただいた方々の活躍

ポルトでのジャパンウィーク®開催が決定してからイベントが終了するまで、下記の方々は、実務上のきめこまやかな打合せと準備で大変ご協力いただき、今回のジャパンウィーク®を成功へと導いた。

コーディネーター　袖林　優子
サブコーディネーター　小野　由美子
ポルト市　Mr.Manuel de Novaes Cabral／ポルト市長室長
ポルト市　Ms.Inês Ferreira／ポルト市ソーシャル連絡調整課補佐
ポルト市　Ms.Marta Barbosa／ポルト市国際課・プロトコール担当
ポルト市　Mr.João Paulo Cunha／ポルト市国際課・プロトコールチーフ
ポルト市　Mr.Nuno Varela Guerra／ポルト市国際課・プロトコール担当
火縄銃関係　Ms.Sónia Ferreira／Associação Portuguesa de Coleccionadores de Armas (APCA)
火縄銃関係　Dr. Luis Moura／Associação Portuguesa de Coleccionadores de Armas (APCA) 会長
火縄銃関係　須川　薫雄様／日本前装銃射撃連盟　副会長

オープニング・フェスティバル

日時 11月20日(土) 14:30〜18:00
場所 ロザ・モタ・パビリオン 屋内外 **観客数** 1,700名(屋内外)

日本側
愛知和男 公益財団法人国際親善協会会長、新井辰夫 在ポルトガル日本国大使館公使、宮坂寿彦 日本興損害保険株式会社常務執行役員、久利生道郎 株式会社日本航空インターナショナル東京支店国際観光販売部部長、丸尾和明 公益財団法人国際親善協会理事、坂牛研一 公益財団法人国際親善協会常務理事

ポルトガル側
ギリェルメ・レゴ市議会議員、ヴラディミーロ・フェリズ市議会議員、ルイ・ヌネス科学開発財団理事、ラケル・カステロ・ブランコポルト社会財団理事

参加者 種子島火縄銃保存会、愛知県古銃研究会・長篠設楽原鉄砲隊、備州岡山城鉄砲隊、米澤藩古式砲術保存会、さだ須佐太鼓団、浜松花蝶ちん、ポルト日本語補習校、長崎県立長崎東高等学校吹奏学部、天草ハイヤ踊り、Academia De Dancas E Cantares Do Norte De Portugal、世界盆踊り連

種子島火縄銃保存会

愛知県古銃研究会・長篠設楽原鉄砲隊

備州岡山城鉄砲隊

米澤藩古式砲術保存会

14時半、ホラ貝の響きとともに鉄砲隊の入場開始。種子島火縄銃保存会、愛知県古銃研究会・長篠設楽原鉄砲隊、備州岡山城鉄砲隊、米澤藩古式砲術保存会の順に入場、整列完了、と同時に、バケツをひっくり返したような雨に襲われ、鉄砲隊、観客それぞれ一時避難。幸いにもすぐに雨も上がり、観客も戻り、15分間の中断で再開することができた。4グループそれぞれ個性あるグループによっては甲冑の衣装にてパフォーマンスを見せてくれた。大筒の耳をつんざく音のものすごさには、さすが度肝を抜かれた。無事鉄砲隊の演武が終了し、いざ屋内での「開会式」へ。

出演者全員が整列する中、愛知会長とヴィラディミーロ・フェリズ市議会議員による「開会宣言」で、今年の第35回ジャパンウィーク®が開幕、すぐに演目の披露へとプログラムが進行した。まず、さだ須佐太鼓団のエネルギーあふれる和太鼓演奏がスタート、ちんどんのあでやかな衣装と活気あふれる音色の浜松花蝶ちん、ポルト日本語補習校の皆様による昔なつかしい「餅つき」の披露と続いた。長崎県立長崎東高等学校吹奏楽部の若さあふれるブラスバンド演奏、メリハリのきいた天草ハイヤ踊り、続いてAcademiade Danças E Cantares Do Norte De Portugalの皆様による地元の民族部舞踊の披露、叙情的な音色と民族衣装がとても新鮮であった。そしてフィナーレへ、世界盆踊り連がリードを取り、出演者、観客入り乱れての踊り。「阿波踊り」「東京音頭」のメロディーが交互に流れ、ポルト日本語補習校の子ども達から、ポルト市民の老若男女までが一緒に楽しく踊っている雰囲気に、交流のすばらしさと、今回のジャパンウィーク®の成功を感じさせてくれるひとときであった。世界盆踊り連の家弓氏のフィナーレ演出協力に感謝。

オープニング・レセプション

日時 11月20日(土) 18:30〜20:00
場所 ポルト市庁舎

日本側
愛知和男 公益財団法人国際親善協会会長、伴野豊 外務副大臣、四宮信隆 在ポルトガル日本国大使館特命全権大使、宮坂寿彦 日本興亜損害保険株式会社常務執行役員、久利生道郎 株式会社日本航空インターナショナル東京支店国際観光販売部長、丸尾和明 公益財団法人国際親善協会理事、坂牛研一 公益財団法人国際親善協会常務理事

ポルトガル側
ルイ・リウ市長、ギリェルメ・レゴ市議会議員、ヴラディミーロ・フェリズ市議会議員、マヌエル・サンパイウ・ピメンタル市議会議員、ゴンサロ・ゴンサルベス市議会議員、アウレリアノ・ヴェローゾポルト前市長

「オープニング・フェスティバル」を終えて、和やかな雰囲気でレセプションが始まった。レセプションスタート時にはポルト大学の学生による舞踊音楽演奏グループが軽やかな音楽で出迎えた。レセプションでの日本・ポルトガル双方のスピーチが参加者の気持ちを高揚させてくれた。ルイ・リウ市長、愛知会長そして伴野外務副大臣よりジャパンウィーク®の参加証書が各出席団体代表にステージ上で手渡された。その後愛知会長とポルト市長との両国を代表するプレゼント交換が行われた。引き続き、レセプション参加者は階下のレセプション会場に移動し、ルイ・リウ市長、愛知会長をはじめご臨席いただた皆様が階下に降りる階段の途中で、ルイ・リウ市長より「乾杯」の挨拶がなされた。参加者は舞踊音楽演奏を聴きながら、ご用意いただいた飲み物や料理を楽しみ、両国の実行委員会と歓談をした。思い出に残るひとときであった。

MAP Ⓐ ロサ・モタ・パビリオン

MAP Ⓑ 市庁舎

MAP Ⓒ リボリ劇場

MAP Ⓓ ガレリア・ド・パラシオ

Ⓑ 市庁舎

Ⓕ 国立博物館

Ⓐ ロサ・モタ・パビリオン

● リベルダーデ広場

Ⓓ ガレリア・ド・パラシオ

Ⓒ リボリ劇場

ボルサ宮

Ⓔ

サンチャゴ・デ・
コンポステーラ

フランス

スペイン

マドリッド

● リスボン

ポルトガル

グラナダ

MAP Ⓔ ボルサ宮

MAP Ⓕ 国立博物館

劇　場　公　演

ポルト市の中心、ポルト市庁舎のすぐ近くのポルト市観光局にてジャパンウィーク®舞台公演チケット予約および配布を 11 月初旬からスタートしていただいた。結果としてリボリ劇場での「舞台公演」のチケットがすぐに予約でいっぱいとなった。また、舞台公演が始まり、各参加団体の演技終了後の感動と感激に満ちた表情を間近に感じ、このイベントの成功を劇場公演で確信した。観客の反応も大喝采の拍手の連続、ときにはスタンディングオベーションもあり、公演は大成功のうちに幕を下ろした。

劇場公演 11 月 20 日

日時　11月20日(土)　21:30〜24:10
場所　リボリ劇場　場所　800名(満席)

参加者　長崎県立長崎東高等学校吹奏学部、瀬尾学園 総合カレッジ SEO (琴)、中部きもの研究会、スタジオぽこ・あ・ぽこ、天草ハイヤ踊り

劇場公演の初日、開場時間前に長い列が出来るほどの盛況さ。結局、入りきれない観客がかなりいたと聞いた。劇場の幕開けを飾ったのは長崎県立長崎東高等学校吹奏楽部によるブラスバンド演奏。練習で鍛え上げられたそのすばらしい技量と、40 名の大編成によるパワフルな演奏は、観客を魅了していた。続いては、瀬尾学園総合カレッジ SEO の皆様による箏の演奏。着物に身を包んでの演奏は、日本情緒を醸し出していた。最後の曲は、箏にピアノ、パーカッションも加わった楽しい演奏であった。休憩をはさんで後半は、中部きもの研究会の皆様による着物の着付けショー。着物の美しさに、客席はうっとりした。つづいては、スタジオぽこ・あ・ぽこの皆様の、リズミカルなタップダンス。シャープで心地く、しかも着物衣装のタップダンスに観客は楽しく盛り上がった。最後の締めくくりはハイヤ踊り。鍛えぬかれた踊りの技量はすばらしく、そのリズミカルな動きは気持ちよく、手の指先まで表情があり、観客の惜しみない拍手が、とても印象的だった。

劇場公演 11月21日

日時 11月21日(日) 17:00〜19:45
場所 リボリ劇場 **場所** 800名(満席)

参加者 きものレディ着付学院、花柳アカデミー、CENTRE DE DANSE DE OGAKI、さだ須佐太鼓団、Drumming Grupo de Porto、浜松花蝶ちん

2日目の今夜も、満員の観客で埋め尽くされた。幕開けは、きものレディ着付学院の皆様の着付けの舞。音楽1曲が終るまでの約3分で着物の着付けを仕上げてしまうその手際の良さは、見ていてとても気持ちよく見事であり、観客を魅了した。続いては、花柳アカデミーの皆様の日本舞踊3曲、歌舞伎の古典舞踊のもつ美しさを、観客も感じてくれたことでしょう。前半最後は、CENTRE DE DANSE DE OGAKIの皆様のバレエ。まず新井雅子先生が踊る「七つの子」、雅楽の伴奏と、煌びやかな衣装で『天女』を踊る。そしてよく鍛えぬかれた子どもたちのすばらしい技量と、テンポよく進行するその構成力の見事さに、客席からは惜しみない拍手が贈られていた。

休憩をはさんでの後半は、さだ須佐太鼓団の和太鼓演奏。30名の大編成の太鼓演奏、その迫力に圧倒される客席。途中、地元ポルトの9名のパーカッショングループ、Drumming Grupo de Portoがコラボレーションで加わり1曲を一緒に演奏、客席からは拍手喝采が贈られ、パフォーマンス終了後にはスタンディングオベーションも見られた。最後は、浜松花蝶ちんの皆様による、ちんどんのコミカルで楽しいステージは、客席を“ほっと”なごませてくれていた。終演後はロビーに移り、観客を演奏で見送ってくださり、ここでも楽しい交流の輪が広がっていた。

劇場公演 11月22日

日時 11月22日(月) 21:30~23:55
場所 リボリ劇場 **場所** 800名(満席)

参加者 花柳アカデミー、Kendo Clube do Porto、剱伎衆かむゐ、天草ハイヤ踊り、オカリーナ・デュオ

3日目の月曜の夜も、昨晩同様満員の観客で埋め尽くされた。花柳アカデミーの日本舞踊で開幕。舞踊3曲を短く、うまくまとめ歌舞伎の世界の視覚的美しさを感じさせてくれていた。続いてはKendo Clube do Porto(地元剣道グループ)の出演、迫力ある稽古風景を披露、熱気のこもった生の稽古の“音”と迫力を感じさせてくれていた。次は剱伎衆かむゐの皆様の殺陣パフォーマンス、飛び入りのパフォーマンス体験者を入れてよくまとめられ、ショーアップされた演目は客席を楽しませてくれていた。後半は、天草ハイヤ踊りの緻密な動きの見事さに客は感動し、そして最後の演目はオカリナ演奏。オカリナのやわらかく、懐深く入りこむあたたかい音色に客席は安堵感となごみを与えていただいた。

劇場公演 11月24日

日時 11月24日(水) 21:30〜23:20
場所 リボリ劇場 **場所** 750名

参加者 津軽三味線貢清世会、ESMAE、Academia Pirmin Treku、京都光華高等学校 神楽和太鼓部、京都造形芸術大学 瓜生山舞妓連中

幕開けは津軽三味線貢清世会の演奏で始まり、箏、三味線、尺八にバイオリンが加わり、その琴線を刺激する演奏が観客の心をとらえていた。最後の曲は、ESMAE（地元音楽学校）より3名がマリンバで演奏に加わり、コラボレーションの魅力と、交流のすばらしさを感じさせた。休憩をはさんで、Academia Pirmin Treku（地元バレエ学校）の皆様のバレエ。アフリカ系演出家の作品で、重厚さと「アフリカ」を感じさせる作品であった。最後は、京都光華高等学校 神楽和太鼓部・京都造形芸術大学 瓜生山舞妓連中の皆様による神楽。女子生徒が中心になってまとめられている頼もしいグループ。大蛇2頭とも女子生徒が担当し、迫力にあふれた見事な演技を披露していただいた。

劇場公演 11月25日

日時 11月25日(木) 21:30〜24:05
場所 リボリ劇場 **場所** 750名

参加者 全日本婚礼美容家協会、京都光華高等学校 神楽和太鼓部、京都造形芸術大学 瓜生山舞妓連中、津軽三味線貞清世会

全日本婚礼美容家協会の着物ショーで幕を開ける。着物のモデルはAcademia Contemporanea do Espectacule（地元専門学校）の生徒さんが中心になって短いリハーサル時間の中で、笑顔を絶やさずがんばってくださった。日本の美しくすばらしい着物ショーを作り上げることができ、客席からは割れんばかりの大きな拍手が贈られた。続いては、京都光華高等学校 神楽和太鼓部・京都造形芸術大学 瓜生山舞妓連中の皆様の神楽、昨晩の公演よりもさらに磨きがかかり、大蛇のスペクタクルな演技に、万来の拍手がおくられた。締めくくりは、昨晩に引き続いての津軽三味線貞清世会の皆様の三味線、箏、尺八にバイオリンが加わった演奏、最後はポルトガル国歌の演奏で締めくくる。その絶妙なハーモニーに万来の拍手。無事、成功裡に舞台の幕を下ろすことが出来た。

展示スターティング・セレモニー

日時　11月21日(日)　11:30〜12:00
場所　ガレリア・ド・パラシオ　観客数　200名

日本側
愛知和男 公益財団法人国際親善協会会長、四宮信隆 在ポルトガル日本国大使館特命全権大使、久利生道郎 株式会社日本航空インターナショナル東京支店国際観光販売部部長、丸尾和明 公益財団法人国際親善協会理事、坂牛研一 公益財団法人国際親善協会常務理事

ポルトガル側
ヴラディミーロ・フェリズ市議会議員、
ラウル・マトス・フェルナンデスポルト市文化局長

展示会場ガレリア・パラシオにて、展示・実演のオープニングのセレモニーが開催された。はじめにポルト市文化局長　ヴィラディミーロ・フェリズ氏、四宮大使、愛知会長のご挨拶および開催宣言が行われた。日本から17の展示団体および現地ポルト市から2つの団体紹介の後、オープニングパフォーマンスで5日間の展示・実演が始まった。

両国の実行委員会の方々による出展ブースの見学では、日本からの各出展の代表者とお話しをされ、じっくりと時間をかけて出展作品をご覧いただいた。

展示・実演

一般の展示・実演参加者の皆様については、ガレリア・ド・パラシオ、株式会社アートクロス様の美術展としては国立美術館と、２箇所での展示となった。

ガレリア・ド・パラシオはドゥロ川を見下ろす、市民の憩いの場所である、クリスタル・パレス公園内に位置する。本年も、お茶会場は展示会場と同じ場所となり、家族連れや若いカップル、お年を召した方々など様々な年齢層の方がお見えになり、平日には学生さんが授業の一環で来られたり、会場は大変多くの来場者で活気のある展示会場となった。また、ポルト市及び近郊にお住まいの日本人及び日系の方々に書道や折り紙の実演をお手伝いいただき、日本文化の紹介とポルト市民の方々との交流に多大なるお力添えをいただいた。期間中には長崎市との友好関係にご尽力されたヴェローゾ前市長が来られ、ポルトの地元のテレビ局、ポルトガル全土で有名なウェブ放送局なども取材に来られ、子供さんからお年寄りまで地元の方々が多く訪れ、日本の文化に触れて交流を楽しんでいただいた。国立美術館では日本画、水墨画、洋画、書道、工芸におよぶ100点の作品が展示され、ポルト市民の皆様には各カテゴリー別に展示された日本美術の歴史、伝統、多様性を楽しんでいただいた。

ガレリア・ド・パラシオ

日時 11月21日(日)～25日(木)

自然食レストラン　洋望荘

すばらしい日本の包丁使いによる野菜細工作品を来場者の前で披露され、ポルト市民の方々は人参でできた百合の花、大根でできた菊の花、きゅうりでできた薔薇の花等の作品を指差して、見入っていた。また、ご子息の包丁さばきや寿司握りのパフォーマンスをじっと眺めて、その技に感心していた。また、黒紙を使った、メバルの切り絵や蝶の細工作品も展示していただいた。

早稲田大学書道会

持参された５点の書作品を展示し、「平和」、「秋」、「早稲田」等を書きながらメッセージを発信し、筆使いを披露したり、漢字それぞれの意味を伝えたり、来場者の名前を漢字やかなで書いて差し上げたりして、子どもさんからご老人まで、大勢のポルト市民と書を介した交流に忙しく対応していただいた。文字選びに電子辞書が活躍するのに時代を感じた。

(株)書道ジャーナル研究所

39点の様々な書体の作品をクロアチアでの書展を経由して出展された。それらの展示作品の中央で、百人一首の作品や、来場者の名前を漢字にあてた書を大きな和紙に書いていただき、来場者はその実演を取り囲みながら、自分の番が来るのを楽しみに待っていた。作品の中では、絵のような書（トンパ文字）の作品等に足をとめられ、書の表現の広さ、深さに感心されていた。

(株)OPA　北村温子

日本・ポルトガル修好150周年を記念して、長崎市を通じてポルト市へ寄贈された富士山と桜をモチーフとした大きな七宝焼作品の前で、七宝焼の土台となる具材に筆で絵付けを体験し、その作品を焼き付けて差し上げる実演をしていただいた。実演のテーブルでは「北村！ 北村！」と先生の名前が飛び交い、笑顔と楽しさでいっぱいであった。

草木染工房しかり

天然染色による、わらじ、獅子の壁掛け2作品、軍鶏、武者を描いた手ぬぐい、きもの、帯、「観月」と題されたのれんなどの作品を展示していただき、その染める原料と染められた糸を展示紹介すると共に、テーブルでは染めの型紙切りを実演していただき、来場者の皆様は型紙切りに参加したり、その作業を見入っていた。

松涛流

お正月をテーマにした竹を用いたいけばな作品を先生が作成し、展示を行うとともに、来場された幾人かの方にも、竹を使ったいけばなをお教えして、出来上がった作品を持ち帰っていただいた。いけばなの材料が無くなってしまった後も、実演のテーブルでは、カエルなどの折り紙で来場者を楽しませていただき、時間一杯多くの方々と交流を楽しんでいただいた。

中部きもの研究会

公演と共に、和服文化の紹介の一旦として、金、ピンク、色とりどりの帯を帯留めで筒状に巻きつけたオブジェを展示していただいた。リボリ劇場での公演の後、展示会場に移送させていただいた作品に、来場者は足を止めて、その美しさに見入っていた。

京都美山詩画集

木目を利用した額、色紙、日めくり等に描かれた、微笑ましく、可愛い絵とウイットに富んだ言葉とやさしい文字の様々な作品を展示していただいた。その前では、誕生日の花と好きな言葉を色紙に描いてあげる実演をしていただいた。来場者はその色紙作品が出来上がる様子をじっと見入っていた。

ポルトガル刺繍・糸のパッチワーク

ポルトの刺繍愛好家と隣のブースでの出展であった。日本からの作品はパッチワークや太めの糸を使用した物を展示していただいた。地元ポルトからの作品は麻を使用した細かい作品で、これらを互いに教えあったりして刺繍を通じた交流を図り、来場者とは日本語とポルトガル語での会話で交流を図っておられた。

瀬尾学園 総合カレッジSEO(料理)

ひな祭りをテーマにした料理、桜餅と花チラシ寿司を紹介していただいた。桜餅はあんを包む皮を一枚ずつプレートで焼くのを来場者は取り囲むように見入っていた。あんこを包み、桜の葉をまとった桜餅を頂いた人は、家族みんなで一口ずつ味わっていた。また、チラシ寿司はケーキのようにデコレーションされ、食べるには惜しい出来映えであった。

瀬尾学園 総合カレッジSEO(いけばな)

和服を召された先生方は、オープニングと同時に、来場者の前でお花を生けて、作品を作っていただいた。趣向を凝らした花器には、すーと天に直線的に延びる作品などが生けられ、池坊いけばなの伝統作品をご披露いただき、来場者はカメラを近づけてシャッターを切ったり、顔を近づけて見入っていた。

長崎市(写真)

失われた被爆遺産として旧浦上天主堂、まつりとして長崎おくんち、ランタンフェステバル、精霊流し等、また、出島、眼鏡橋、グラバー邸、港の夜景などの名所風景、ポルトガル海軍練習船サグレス号の2010年8月3日での第4回目の長崎寄港の歓迎模様など、40 点の写真を紹介していただき、姉妹都市交流を促進していただいた。

長崎いけばな連盟

カーネーション、菊、黄色バラ、かすみ草、ゆり、つばき等を生けた13点の作品をご披露していただいた。来場者の皆様は籐、陶器、木器など異なった素材とさまざまな形の花器に生けられた作品を、下から上から斜めからといろいろな角度から眺め、また、顔を近づけ香りをかいだりして、いけばなの美しさを満喫しているようであった。

瀬尾学園 総合カレッジSEO(茶道)

日本から長椅子および御園棚をご持参され、ご参加者4名を客として立礼での茶会を再現していただいた。茶道具の説明や、客人の順番の説明、お点前の作法説明、裏千家の特徴などに、観客は耳をかたむけて、茶会の様子に見入っていた。茶菓子として、ご参加者4名の客人には日本より持参した材料を使ってこちらの展示会場で作った桜餅が供され、ポルトのご来場者の皆様には、ポルトガルとゆかりのあるコンペイ糖が出され、お抹茶の味とお茶会を充分楽しまれた。

茶道文化継承 和育いちご会・日光会

会話ではなく動作から相手の気持ちを図る、お辞儀を三段階に分けて使い分け、たくさんお辞儀をする等、茶道を通じたおもてなしの心を、ポルトの方々にご説明いただき、ご披露いただいた。来場者の皆様は、茶菓子としてコンペイ糖をガラス瓶から取り出し、懐紙に取り、口に運び、お抹茶が運ばれる等の、優雅で流れるようなお点前をじっと目をこらして眺め、写真を撮っていた。また、長崎市との友好にご尽力された、ヴェローゾ前市長も来られ、一期一会の心を持って行なわれるお茶会をご家族皆で楽しんでいかれた。

煎茶道 静風流

10回ものお茶会を模様していただき、毎回満員の入場者で、ご来場の皆様はお茶会を大変楽しまれた。煎茶道　静風流の皆様は皆和服を着て、来場者をお迎えし、来場者の代表として3名を舞台に上げ、畳の上に正座し、お辞儀をして、お茶会に参加していただいた。抹茶とは異なる煎茶(緑茶)についての詳細な説明とともに、3名以外のご来場者の皆様にも緑茶とお茶菓子を味わっていただき、来場者は書、絵、いけばななどの要素を加えた総合芸術としての煎茶道を体感し、毎回、拍手で感謝の意を表わした。

国立美術館

日時 11月20日(土)～26日(金)(22日、および23日の午後14:00迄休館)

株式会社アートクロス

株式会社アートクロス様が国立美術館にて「～日本・ポルトガル修好150周年記念～ Japan Art Festival in Porto 2010」を開催いただいた。100点の日本美術の作品は5部門に分かれて展示された。ご来場された市民には、学生の団体や若い方が一人で訪問される方もいた。ご来場された皆様は展示された多種多様の美術品の雰囲気に驚いていた様子だった。

展示・実演　現地参加団体

日本画・いけばな・折り紙

ポルトガルMOA財団 (Fundação MOA de Portugal)

ポルト市からのご参加で、日本画、いけばな、折り紙などの幅広い作品を展示して、日本文化の一端を紹介した。また、実演では一輪差しを来場者に楽しんでいただき、持ち帰っていただいた。会期中には、茶道の実演も行っていただき、日本文化の紹介にお力添えをしていただいた。

ポルトガル刺繍

Ms. Benvinda Fraga ARTEAR

日本からの展示参加者であるポルトガル刺繍・糸のパッチワークの皆様と展示会場にてお会いしていただき、刺繍を通じた交流をしていただき、また、展示期間が終わるまでご自身の作品を展示していただいた。

表　敬　訪　問

長崎大学　表敬訪問

日時　11月24日(水)　11:30～12:30
場所　ポルト市庁舎

ポルト市でのジャパンウィーク®開催時に合わせて長崎大学とポルト大学が学術交流協定を締結し、両大学幹部の皆様がポルト市庁舎を表敬訪問された。ポルト市からは副市長のアルバーロ・カステロ・ブランコ氏が応対し、長崎大学学長　片峰茂様と互いに歓迎と感謝の気持ちを交わした後、互いにプレゼント交換をして和やかな、しかし引き締まった雰囲気の中で表敬訪問を終えた。

交流プログラム（学校訪問）

さだ須佐太鼓団

日時　11月22日(月)　09:45～12:00
学校名　アグルパメント ド セルコ高校(Agrupamento do Cerco)
交流場所　高校体育館　交流対象　高校生(14～18歳)　約400名

大規模な高校で、大勢の生徒に集まっていただいた。最初にポルト側の高校がアクロバット体操の演技披露をしていただいた。その後、さだ須佐太鼓団の皆様が和太鼓の演奏を披露した。そしてワークショップの時間が始まり、ポルト側の生徒が和太鼓をたたく体験をさだ須佐太鼓団の皆様に教わりながら楽しんだ。

(株)書道ジャーナル研究所

日時　11月22日(月)　09:45～12:30
学校名　アレシャンドレ エルクラーノ高校(Alexandre Herculano)
交流場所　高校体育館　交流対象　高校生(16～18歳)　約120名

到着後直ぐに、生徒たちによるポルトガル民族衣装での歌と踊りによる歓迎があり、(株)書道ジャーナル研究所の皆様には喜んでいただいた。会場には約120名の生徒にお集まりいただき、書道の実演、その後のワークショップは大盛況であった。書道ジャーナル研究所の皆様も、これほど多くの方の前での実演は珍しいとのことで、歓迎のお礼として高校側へ、「友愛」の一幅を寄贈され、高校側も大変喜んでいただいた。

オカリーナ・デュオ

日時　11月22日(月)　09:45～11:30
学校名　アグルパメント ロドリーゲス デ フレイタス小学校(Agrupamento Rodrigues de Freitas)
交流場所　小学校内オーディトリアムおよび体育館　交流対象　小学生(6～10歳)　約230名

初めにオーディトリアムにてオカリーナ・デュオの皆様は美しいオカリナの演奏を披露し、生徒たちはその美しい音色に聴き入っていた。また、小学校で習う音楽の楽譜をあらかじめオカリーナ・デュオの皆様に送っていたが、それらを演奏し、生徒たちは身近なメロディがオカリナで演奏されるのを楽しんだ。そして、双方のプレゼント交換(日本側は縄跳び)があり、場所を体育館に移して、お互いに縄跳びで汗を流した。オカリーナ・デュオの皆様も童心に返り、この小学校での交流を最後は縄跳びで楽しんでいただいた。

早稲田大学書道会

日時　11月23日(火)　09:00〜12:00
学校名　エスコーラ ド プリメイロ コヴェーロ小学校(Escola do 1 Covelo)
交流場所　小学校内カフェテリア　交流対象　小学生(9〜11歳)　約80名

早稲田大学書道会の皆様は到着後、交流相手先の小学校によって大歓迎を受け、まず短い「劇」および「歌」のパフォーマンスが小学校の生徒の皆様より披露された。その後、早稲田大学書道会の皆様は自己紹介をし、自らデモンストレーションを行い、その後 80 名の生徒さんには自分の名前を漢字で書くワークショップを行った。生徒の皆様は大変喜び、完成させた名前を大事に自宅に持って帰った。とても楽しい交流の場であった。

京都光華高等学校 神楽和太鼓部
京都造形芸術大学 瓜生山舞子連中

日時　11月23日(火)　14:15〜16:30
学校名　エスコーラ セクンダーリア フィリパ デ ヴィリェーナ高校(Escola Secundária Filipa de Vilhena)
交流場所　高校体育館　交流対象　高校生(16〜18歳)　約100名

最初にポルト側の高校より世界大会のチャンピオンとなったヒップホップのチャンピオンより、すばらしいダンスパフォーマンスがあり、その後同高校より演劇のパフォーマンスもご披露いただいた。そして日本側からは神楽のおろちのパフォーマンスを行った。おろちは1体でも、見学していた高校生に向かって迫力十分であった。高校生のそのパフォーマンスに皆びっくりしていた。その後、ポルト側の高校生には、おろちに触っていただいたり、神楽の独特の衣裳に触れたりしていただきながら、皆様は交流を楽しんでいただいた。

自然食レストラン　洋望荘

日時　11月23日(火)　14:15〜16:30
学校名　アグルパメント　アンタス中学校(Agupamento Antas)
交流場所　中学校内クラスルーム　交流対象　中学生(12〜16歳)　約60名

洋望荘の皆様が野菜細工の作品を作る過程はとてもエキサイティングであった。見学していた生徒のみならず先生も、洋望荘の皆様の作品作成の様子を少しでも見ようと近づいて見ていた。ご主人のスキルは大変な高度のものであるが、ご主人のみならず、息子さんの才能もすばらしかった。

交流プログラム（老人ホーム訪問）

京都美山詩画集

日　時　11月22日(月)　09:00〜13:00
老人ホーム名　アソシアサォン ヌヌ アルヴァレス デ カンパニャン老人ホーム (Associação Nun' Alvares de Campanã)
交流場所　老人ホーム内ミーティングルーム
交流対象　老人ホーム滞在者　約20名

最初に老人ホームと京都美山詩画集の皆様、双方でご挨拶をそれぞれポルトガル語と日本語で行なった。その後、京都美山詩画集の山崎様が予め入手した誕生日情報を基に 20 名様に、それぞれ花と誕生日についての説明をし、花の絵と温かい言葉を完成させてお渡しした。ご老人の皆様は大変喜んでいただき、ご自宅に皆様は大切に持って帰った。最後に一緒に写真を撮り、その後スタッフの皆様と京都美山詩画集の皆様は昼食を楽しんだ。とても心が豊かになった交流のひとときであった。

(株)OPA　北村温子

日　時　11月22日(月)　15:00〜17:00
老人ホーム名　ラール レズィデンシア ダス フォンタイーニャス老人ホーム (Lar Residencial das Fontaínhas)
交流場所　老人ホーム内多目的ホール
交流対象　老人ホーム入居者　約30名

北村氏の挨拶の後、今回の老人ホーム交流をアレンジしていただいたポルト市の担当の方から日本についての説明もしていただいた。北村氏からは作品の説明をし、そして今回ポルトに来るきっかけになったきっかけやご自分の曽祖父とポルトガルとの関係を話された。最後にはゲストルームにてポートワインとスナックのおもてなしを受け、北村氏の作品の贈り物に、老人ホームの皆様はとても喜んでいただいた。

花柳アカデミー

日時　11月22日(月)　13:00〜15:30
老人ホーム名　アソシアサォン ソシアル イ クルトゥラル デ サン ニコラウ老人ホーム (Associação Social e Cultural de S. Nicolau)
交流場所　老人ホーム内サロン
交流対象　老人ホーム入居者および滞在者　約50名

花柳アカデミーの皆様は、老人ホームの皆様に熱烈に歓迎された。彼らは老人ホームの皆様にプレゼントをお渡しし、鮮やかな日本舞踊を披露した。最後に花柳アカデミーの皆様は老人ホームの皆様の手作りのプレゼントを渡され大変喜んでいただいた。

日時　11月22日(月)　16:00〜17:30
老人ホーム名　セントロ ソシアル セ カテドラル ド ポルト老人ホーム (Centro Social Sé Catedral do Porto)
交流場所　老人ホーム内サロン
交流対象　老人ホーム滞在者　約30名

花柳アカデミーの皆様は、老人ホームの皆様に、この直前に訪問した老人ホーム同様に熱烈に歓迎された。老人ホームの皆様にとっては、日本舞踊を目の前で見るのは初めてであったので、大変喜んでいただいた。

日時　11月23日(火)　13:00〜15:00
老人ホーム名　セントロ ソシアル ダ パステイラ老人ホーム (Centro Social da Pasteleira)
交流場所　老人ホーム内講堂
交流対象　老人ホーム滞在者および同施設内幼稚園児　約60名

この老人ホーム滞在者のみならず、同施設内の幼稚園児も花柳アカデミー様の日本舞踊を見学した。老人ホーム側は、施設内の舞台付の講堂を用意し、花柳アカデミー様に日本舞踊をご披露いただき、ご老人および幼稚園の子供たちに喜んでいただいた。

自然食レストラン　洋望荘

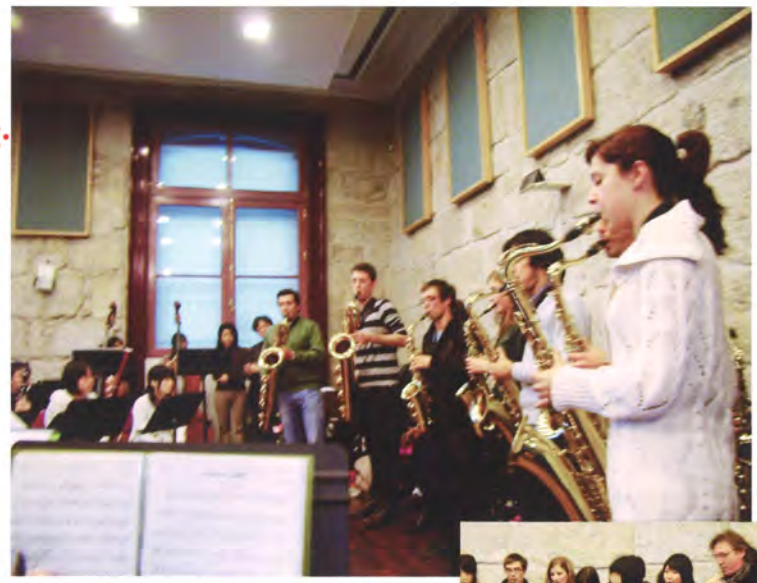
日時　11月24日(水)　15:00〜17:00
老人ホーム名　サンタ カーザ ダ ミゼルコールディア ド ポルト老人ホーム (Sta. Casa da Misericórdia do Porto)
交流場所　老人ホーム内ミーティングルーム
交流対象　老人ホーム入居者　約30名

自然食レストラン 洋望荘の皆様が野菜細工の作品を作成する過程において、その技術があまりにすばらしいので、見学した老人からは、何度も拍手がわきおこった。そしてその完成した繊細な高度な作品に見とれて感動のあまり涙ぐむご老人もいらっしゃった。最後に老人ホームからは、ポルトガル料理とワインのご提供があり、洋望荘の皆様は和やかな雰囲気の中で楽しまれた。

交流プログラム（音楽交流）

長崎県立長崎東高等学校 吹奏学部

日　時　11月19日(金)　15:30～17:00
交流専門学校名　ESMAE(学校)　交流場所　ESMAE内 楽器演奏練習会場
交流対象　ESMAE内 サックス演奏グループ　約10名



当初 ESMAE 内のカフェの予定であったが、手狭なので、急遽、ESMAE 内　楽器演奏練習会場に交流会場を変更していただいた。交流演奏として数曲ずつ、最初に長崎県立長崎東高等学校の吹奏楽部の皆様が演奏をし、その後 ESMAE 内サックス演奏グループに演奏いただいた。彼らは長崎東高等学校の吹奏楽部の演奏レベルが高いのに驚いていた。最後には一緒に“We are the World”を一緒に演奏し、音楽を通じて交流できた喜びを分かちあった。

交流プログラム（舞踊交流）

スタジオぽこ・あ・ぽこ

日　時　11月19日(金)　19:00～21:00
交流専門学校名　アカデミア デ ダンサス イ カンターレス ド ノルテ デ ポルトガル
Academia De Dançãs E Cantares Do Norte De Portugal
交流場所　グループの集会場
交流対象　約45名

スタジオぽこ・あ・ぽこの皆様はグループの集会場に到着後、Academia De Dançãs E Cantares Do Norte De Portugal(地元ダンス愛好家グループ)の皆様に大歓迎を受けた。交流のスタートとして、最初にアカデミアの皆様がダンスを披露した。その後、スタジオぽこ・あ・ぽこの皆様のタップダンスの披露となった。そして互いに、ダンスを教えあい、とても楽しい交流のタベであった。

交流プログラム（バレエ交流）

CENTRE DE DANSE DE OGAKI

日　時　11月22日(月)　14:00〜17:00　交流バレエ学校名　ピルミン・トレク・アカデミ(Academia Pirmin Treku)
交流場所　バレエ学校内スタジオ　交流対象　バレエ学校に通う生徒　10名

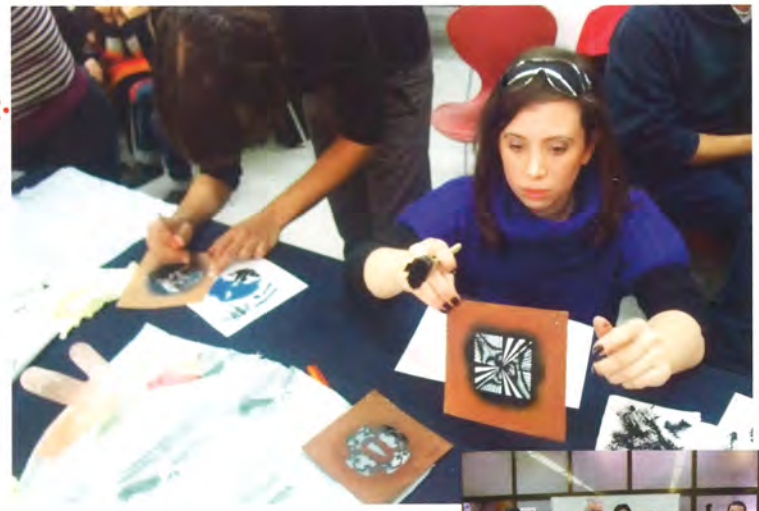
この訪問交流は大変有意義であった。良い先生達から指導を受け、生徒は言葉が通じなくともバレエのレッスンを通じてコミュニケーションができたことを大変喜んでいた。CENTRE DE DANSE DE OGAKI　の新井先生は、この海外での体験について「これからも世界を飛び回り、観客に感動を与え続けるため、どう表現すればよいのか、精進し続けたい」とのことであった。

交流プログラム（草木染）

草木染工房しかり

日　時　11月22日(月)　14:00〜17:00
交流学校名　CITEX(Center of Professional Training for Texile Industry)
交流対象　CITEXの生徒(18〜35歳)約30名

約30名のCITEXの生徒皆様ばかりでなく、校長先生までもワークショップにご参加いただき、草木染を体験し、楽しんでいただいた。草木染工房しかり様より、草木染の説明の後、CITEXの皆様には予め用意してきた型にハケで色を刷り込んでいく作業や、ハンカチを2枚ずつそれぞれ別の染料に染めていく作業を体験していただき、貴重なワークショップを体験していただき、大変喜んでいただいた。



交流プログラム（ポルトガル刺繍）

ポルトガル刺繍・糸のパッチワーク

日　時　11月21日(日)　12:00～
交流場所　展示会場(ガレリア・ド・パラシオ)
交流対象　ポルトのポルトガル刺繍の先生　Ms. Benvinda Fraga

互いのブースは隣り合わせに位置した。展示スターティングセレモニー後の展示会場での交流であったので来場者も多く、まとまった交流の時間をつくるのは大変であった。

ポルトガル刺繍・糸のパッチワークの皆様は日本から持参された作品や日本での活動を説明し、Ms. Benvinda Fragaは、ポルトガルの伝統工芸品にあしらわれる独特の刺繍の仕方をポルトガル刺繍・糸のパッチワークの皆様にご案内し、「刺繍」を通じた交流の時間を楽しく過ごしていただいた。

交流プログラム（料理交流）

自然食レストラン　洋望荘

日　時　11月22日(月)　08:00～15:00
交流場所　レストランDOP
交流対象　料理家Mr. Rui Paula、DOPのシェフおよび招かれたジャーナリストおよびポルト市幹部　計約20名

この日の交流は、日本側（洋望荘の皆様）とポルトガル側（Mr. Rui Paulaおよび彼が経営するレストランＤＯＰのシェフの皆様）、双方が魚をメインに料理を作り、招かれたジャーナリストおよびポルト市幹部が、双方のディッシュをそれぞれ試食するというプログラムであった。Mr. Rui Paulaのリクエストで、まず朝一番には、洋望荘の佐藤様の巧みな魚さばきを、Mr. Rui PaulaおよびDOPのシェフの皆様が、興味深く見学し、教わった。その後、双方が料理を始め、それぞれ、ときより合間にそれぞれが様子をうかがった。洋望荘の皆様は、みそ汁、見栄えが美しいお寿司と刺身、そして最後に和菓子を作り、Mr. Rui Paulaも、繊細な盛り付けの創作ポルトガル料理を作成した。洋望荘の佐藤様だけでなく、ご子息も大活躍であった。招かれたジャーナリストやポルト市の幹部の皆様は日本、ポルトガル双方の料理に大満足の様子であった。最後にMr. Rui Paulaが、佐藤様と息子さんを紹介し、拍手喝采を受け、和やかなうちにこの料理交流は幕を閉じた。

交流プログラム（西日本友好親善訪問団）

ポルト市内観光と日本語を勉強しているポルトの方々との訪問交流会

日時　11月19日(金)・22日(月)・24日(水)　場所　各ホテル → ポルト市内観光 → ポルト訪問交流会

ポルトに到着した翌日は、午前中各滞在ホテルを出発し、現地ガイドの案内のもとポルト市内をバスで観光。ポルトの市電博物館を訪問し説明を受けた後、グループ毎に貸切のクラッシックトラムに乗車し、風光明媚なドウロ川沿いの車窓を楽しんだ。その後は、バロック装飾の極致サン・フランシスコ教会をはじめ、カテドラルを見学。一同は世界遺産である旧市街の美しい町並みに感銘を受けた。午後はジャパンウィーク®の目的のひとつでもある国際親善交流の機会として、日本語を勉強しているポルトの方々との訪問交流会を開催した。交流会では何故日本語に興味を持ったのか、勉強した日本語を今後どのように生かしていきたいかという点を切り口にしたスピーチに、訪問者一同興味深く聞き入った。

スピーチの後は質問タイムとなり、日本とポルトガルの違いや、アニメや漫画といったサブカルチャーなどの話題も出て、あっという間の1時間が過ぎ去った。最後は参加各団体の代表が学生にお土産を手渡し、交流会は終了した。なお本年はこの他、24日にポルト市内のティアラ・パーク・アトランティック・ホテルにて、ポルトガル国鉄との鉄道シンポジウムも開催された。

ポルトナイト

日時　11月19日(金)・22日(月)・24日(水)　場所　ポルサ宮

今回ご参加いただいた西日本友好親善訪問団の参加者に感謝の意を表するとともに、地元とのより一層の親善交流を図るため、ごく最近まで証券取引所であった「ポルサ宮」にて夕食会「ポルトナイト」を開催。日本側は19日・22日が丸尾和明氏／株式会社日本旅行代表取締役社長、24日が原田好博氏／株式会社日本旅行執行役員西日本営業本部長、ポルトガル側は19日がギレルミーナ・レゴ氏／ポルト市市議会議員、22日がマヌエル・デ・ノバエス・カブラル氏／ポルト市議会担当局長、24日がゴンサロ・ゴンサルベス氏／ポルト市市議会議員のそれぞれのご挨拶で開始されたポルトナイトは、参加者の皆様にポルトガル郷土料理のコース料理をご堪能いただくとともに、アトラクションではポルトガルの民族歌謡ファドとフォークロアショーをお楽しみいただいた。特にフォークロアショーでは民族衣装をまとった老若男女の出演者の誘導のもと、多くの参加者が演奏に合わせて手を繋いで踊るなど大いに盛り上がった。そしてこの夕食会は盛況のうちにおひらきの時間となり、来年の開催地ドイツ連邦共和国フランクフルト・アム・マインの案内とともに終了した。

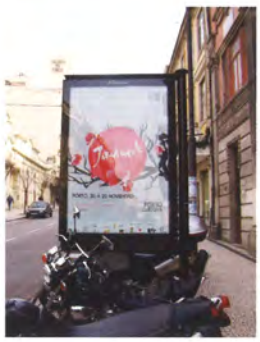
野外宣伝パフォーマンス

浜松花蝶ちん

日時 11月20日(土)の午後　**場所** ポルト市内中心部

浜松花蝶ちんの皆様は目立つ衣裳と化粧、そしてウキウキさせるライブの音楽でポルト市内の中心部、繁華街を練り歩き、ジャパンウィーク®のはじまりをポルト市民の皆様に宣伝していただいた。主に学校の子供たち用に作成した、ジャパンウィーク®のシールを配り、ポルト市民の関心をひいた。

街での宣伝・ボランティア一覧



ボランティア

Mr.Miguel Lima
坂本真実子
伊藤廉
浅野厚子
アゼベド裕子
アンドラデ早苗
青木裕紀子
遠藤ラウラ
加藤たかや
菊池玲子
坂本ルミ

Ms. セベスティク博子
對馬ケイコ
町田やす子
宮坂直子
村山由美
Ms. くまがいマリーナ
松田則夫
松田みゆき
松田ゆかり
山川翔子

Ms.Andreia Silva
Ms.Alexandra Moura
Mr.Bruno Pereira
Ms.Catarina Vieira
Ms.Edite Constela
Mr.Francisco Vacelar
Mr.Gaspar Castro
Mr.Nuno Moreiras
Ms.Inês Ribeiro
Ms.Inês Pinto
Mr.Jesper Andersen

Ms.Liliana Feijo
Mr.Luis Fernandes
Ms.Maria Brandao
Ms.Maria Muto Rodrigues
Mr.Miguel Nabuco
Mr.Pedro Marinho
Mr.Pedro Tavares
Mr.Remi Kesteman
Mr.Ricardo Lagestee
Ms.Sabina Nilaura
Mr.Sergiio Santos

コーディネーター

コーディネーター　袖林裕子
サブコーディネーター　小野由美子

新聞・雑誌記事

PORTO ACOLHE EM NOVEMBRO A *JAPAN WEEK*

De 20 a 26 de Novembro próximo, o Porto vai acolher a *Japan Week* (Semana do Japão), uma iniciativa da responsabilidade da International Friendship Foundation (IFF), que apresenta uma vasta programação cultural de artistas e grupos do País do Sol Nascente.

A primeira *Japan Week* realizou-se há cerca de 30 anos, em Florença, e desde então todos os anos tem vindo a decorrer numa cidade diferente do mundo. O objectivo é aprofundar a mútua compreensão e a amizade entre o país anfitrião e o Japão. Todos os eventos são gratuitos e abertos ao público.

A *Japan Week* abre no dia 20, às 15h00, com o Opening Festival, no Pavilhão Rosa Mota. A partir desse dia, realizar-se-ão espectáculos de artes performativas no Grande Auditório do Rivoli.

Haverá, igualmente, lugar para uma cerimónia do chá na Galeria do Palácio e para uma exposição no Museu Nacional de Soares dos Reis, além de uma série de outras iniciativas a acontecer por toda a cidade.

CULTURA | **De 20 a 25 de Novembro cidade do Porto envolvida pela cultura Japonesa**

Festival Cultura Japonesa (Japan Week)

A Japan Week, é um evento cultural que o Japão organiza desde 1986, anualmente numa cidade do planeta. Desta feita chegou a vez da "Mui Nobre Leal e Invicta cidade do Porto" ser a eleita, não por mero acaso, mas para assinalar os 150 anos do tratado de Amizade Portugal-Japão.

Apesar dos extremos geográficos dos dois países, existe uma grande ligação entre nós, especialmente entre a nossa chegada ao país do sol nascente em 1543 e até 1639 quando o Japão fechou os seus portos, houve um período fecundo de relações comerciais e culturais, apesar de no inicio nos terem considerado "bárbaros comerciantes do sudeste", que não compreendíamos a distinção entre superior e inferior, sem sistema de etiqueta, que bebíamos sem oferecer do copo, comíamos com os dedos e não com pauzinhos, e ainda que mostrávamos os sentimentos sem qualquer rebuço, ao contrário da civilização japonesa. Mas a parte melhor da apreciação japonesa sobre nós é com o facto de "não compreendermos os caracteres escritos" (os deles, claro!) e, qual cereja no topo do bolo: "são gente sem morada certa, que troca as coisas que possuem pelas que não têm, mas no fundo são gente que não faz mal"! Os séculos passam mas algumas coisas mantêm-se actuais.

Com o estabelecimento dos portugueses em 1557 em Macau, o comércio ficou facilitado, essencialmente através da prata. Mas o aprofundar de relações culturais foram promovidas pelos missionários, desde logo por S. Francisco Xavier que chegou a Nagasáqui em 1569. Na década de 80 desse século realizou-se a primeira embaixada do Japão à Europa. A língua portuguesa foi a língua franca para os estrangeiros que visitavam o Japão, existindo, ainda hoje bastantes palavras com origem na língua de Camões, como por exemplo tempero e tempura. Diversas áreas do conhecimento foram introduzidas no Japão pelos portugueses, desde a navegação onde os lusitanos eram exímios, à astronomia, medicina, matemática, e ainda pelo lado negativo, a espingarda.

Pelo exposto a geminação do Porto a Nagasáqui desde 1978, é perfeitamente justificada, bem como esta semana de eventos japoneses na cidade, através de uma extensa embaixada de artistas plásticos, músicos, performers, e artesãos.

A organização esteve a cargo da Câmara Municipal do Porto e da fundação Japonesa Internacional Friendship Foundation, sob o alto patrocínio da Embaixada do Japão em Portugal, e a abertura aconteceu no Pavilhão Rosa Mota e nos seus jardins, com diversas actuações de grupos japoneses de tambores, folclore e música tradicional, iniciando-se precisamente com exibição de disparo de espingardas seculares, cujo ruído era ensurdecedor.

O evento incluiu exposições de pintura e artes diversas japonesas na Galeria Almeida Garrett e no Museu Nacional de Soares dos Reis, e espectáculos diários no Rivoli, com concertos por grupos japoneses, instrumentos de corda tradicionais, danças, simulação de lutas entre Samurais com as suas Katanas (sabres em japonês), e até a arte de vestir o Quimono (ou Kimono), bastante complicada e demorada, mas com um efeito final de fazer das senhoras um enfeite vivo, de cores normalmente vivas e com inúmeros desenhos e flores.

Na Quinta da Bonjóia também se expôs a gastronomia japonesa e os principais hábitos alimentares deste país oriental.

Ainda no dia 20, ao final da tarde, o Salão Nobre da Câmara Municipal, e o seu presidente receberam a comitiva japonesa liderada pelo secretário de estado dos Negócios Estrangeiros do Japão, Yutaka Banno, e, entre outras individualidades, pelo presidente da International Friendship Fundation, Kazuo Aichi. No final a recepção foi abrilhantada pela Tuna Académica do Porto.

Um acontecimento único numa semana única no Porto, em que na zona da baixa se viam inúmeros japoneses a fazerem as suas habituais fotografias a tudo o que mexe, ou mesmo que não mexa!

Francisco Bacelar

O Japão à mesa no Porto

_ RUI PAULA RECEBE o *chef* japonêS Kazuhiro Sato para fazer brilhar a cozinha nipónica no restaurante DOP durante a Japan Week.

O restaurante DOP, na cidade do Porto, vai ter à mesa o melhor da gastronomia do Japão já na próxima segunda-feira, 22 de Novembro. Nesse dia, o *chef* Kazuhiro Sato, com a sua família, residente na cidade japonesa de Aomori, irão acompanhar o *chef* Rui Paula na criação de um menu representativo da cozinha daquele país.

Os dois *chefs* vão apresentar uma ementa com os sabores e aromas genuínos de um *ryokan*, a hospedaria tradicional japonesa. O *chef* Kazuhiro Sato, proprietário do restaurante Yoboso, em Aomori, é especialista em arte-escultura em alimentos e, juntamente com a mulher e o filho, confeccionará alguns pratos típicos japoneses. O *chef* Rui Paula encarregar-se-á de fazer a ponte entre a gastronomia portuguesa de inspiração regional e a cozinha tradicional do Japão.

A iniciativa faz parte da Japan Week, a semana cultural do Japão que começa hoje e se prolonga até ao dia 25, no Porto. A cidade portuguesa foi escolhida para assinalar os 150 anos da assinatura do Tratado de Amizade entre Portugal e o Japão, que se comemoram este ano. A organização é da Câmara Municipal do Porto e da International Friendship Foundation, com sede em Tóquio, e o patrocínio da Embaixada do Japão em Portugal.

T: **PAULO FERREIRA**

SERGIO OLIVEIRA/GLOBAL IMAGENS

《1》 2版 第18877号 昭和32年12月20日第3種郵便物認可

県古銃研究会・長篠設楽原鉄砲隊

ポルトガルで火縄銃演武

「ジャパンウイーク」へ参加 穂積新城市長から親書

火縄銃の愛好グループ、県古銃研究会・長篠設楽原鉄砲隊が15日、穂積亮次・新城市長を表敬訪問した。ポルトガルで開催される国際交流イベント第35回「ジャパンウイーク」（国際親善協会主催）への参加を前に意気込みを語り、市長から親書が託された。

1543年、ポルトガルから種子島に火縄銃が伝来したのを踏まえ、日本とポルトガルの修好150周年の節目に当たる今年、イベントのメーンに火縄銃の演武が予定されていることから、その鉄砲隊の1グループとして参加する。

演武を披露するのは、同会はじめ種子島火縄銃鉄砲隊、米沢藩古式砲術保存会、備州岡山城鉄砲隊で、同会は7人（うち長篠設楽原鉄砲隊5人）が参加する。

同日、会長の林利一さん（67）と同隊隊員の梶村昌義さん（70）の2人が穂積市長を訪問。林さんが「日本を代表する鉄砲隊としてしっかり披露してきたい」と抱負を述べ、市長から相互交流の促進を期待する親書を受け取った。

ジャパンウイークは、20日から25日にかけ、ポルト市で開催される予定。演武は20・21日の両日行うという。

ンサーチップを生産できる施設「ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー」と連結し、効率的に研究が進められるよう配慮している。

穂積市長から親書を受ける林会長（中）＝新城市役所で

東愛知新聞／2010年11月16日

A COZINHA É UMA ARTE

A Japan Week, que decorreu no Porto entre 20 e 25 de Novembro, foi pretexto para um encontro gastronómico Luso-Japonês sob a batuta maestra do Chefe Rui Paula, dono do restaurante DOP, que desafiou o Chefe nipónico Kazuhiro Sato a elaborar um almoço em que as gastronomias dos dois Países se compararam e enfrentaram num encontro amigável.

Não houve vencedores nem vencidos, sendo que quem ganhou fomos nós, os participantes do almoço, que desfrutámos de uma refeição irrepetível. Rui Paula, com pratos da sua autoria, fez jus à nossa influência na cultura Japonesa, por lá tendo deixado, no Séc XVI, o nosso "Pão de Castela", próximo do Pão de Ló, que os Japoneses adoptaram com o nome de Castella ou Kasutera, ainda hoje um popularíssimo doce, e também a famosa Tempura, que teve origem nos "Peixinhos da Horta", não se sabendo muito bem se a sua designação em Japonês se deveu à palavra Tempero ou Tempore (do Latim).

Sato San é, além de proprietário e Chefe do restaurante Yoboso em Aomori, um especialista em arte-escultura em alimentos. Juntamente com a mulher e o seu filho de 12 anos, que já é um Chefe de Sushi, demonstrou-nos como no Japão a cozinha, mais que uma necessidade, é uma Arte.

Arte-escultura feita com rabanetes, Chefe Sato

Janeiro 2011 ❦ Jardins

Sábado 20 novembro 2010 | Jornal de Notícias | 25 |

Gente
MARGARIDA REBELO PINTO PENSA CASAR-SE PÁG. 32

PASSEIO NUMA TÍPICA ALDEIA BEIRÃ
Folgosinho, na serra da Estrela

WINDOWS CELEBRA 25 ANOS
Sistema operativo

DIVAS EM NOVA IORQUE PARA FESTA DOS EMMY
Pela novela "Meu amor" da TVI

V I V A +

CULTURA NIPÓNICA

JAPÃO NO PORTO

Cidade recebe exposição anual de celebração da cultura nipónica. Folclore, música e exposições estão no programa

Tambores, folclore e música tradicional são os condimentos de uma semana cultural totalmente dedicada ao Japão, que hoje, a partir das 14,30 horas, arranca nos Jardins do Palácio de Cristal e no Pavilhão Rosa Mota, no Porto.

Intitula-se Japan Week e é um evento que se organiza, anualmente, numa cidade do Mundo. Desta feita, foi o Porto a urbe escolhida para mostrar a cultura nipónica, numa ocasião em que se comemoram os 150 anos da assinatura do Tratado de Amizade Portugal-Japão.

Sendo outro dos objectivos da iniciativa a promoção da mútua compreensão e amizade entre o país anfitrião e o Japão, muitos grupos do Porto irão partilhar os palcos com os nossos visitantes japoneses.

O extenso programa começa, então, hoje, pelas 14.30 h, nos locais acima indicados, com uma actuação de um grupo de espingardas de Tanegashima e um de dança festiva tradicional do Japão, entre outras exibições.

À noite, a partir das 21,30 horas, no Rivoli, haverá um festival de orquestra de sopro, um concerto de harpa, dança de sapateado e dança de Halya (uma cidade portuária japonesa), além de uma demonstração sobre a arte de vestir um kimono.

Ao longo da semana, outros espectáculos culturais decorrerão no Rivoli. As entradas, gratuitas, encontram-se já esgotadas para todos os espectáculos. Segundo informação da edilidade portuense, os ainda interessados podem contactar o Posto de Turismo, na Rua do Clube dos Fenianos, 48 horas antes de cada certame, para verificar se há bilhetes disponíveis.

Contudo, a Japan Week não se esgota nestes espectáculos. Há muito mais para ver ao longo de toda a semana, já que o programa é realmente extenso. Se gosta de exposições, há bonsais para ver no átrio do Rivoli, na quarta-feira, das 16,30 às 21 horas; biombos, sexta-feira, das 14.30 às 15.30 horas, no Museu Soares dos Reis, e artes decorativas, todos os dias, na Casa-Museu Guerra Junqueiro.

Haverá, ainda, conferências e tertúlias, como a que se realiza na quinta-feira, pelas 14 horas, no Museu Nacional Soares dos Reis, sobre a "Viagem do chá – do Japão e Oriente aos Açores". Hoje e amanhã, das 10.30 às 16 horas, no Rivoli, pode ficar a conhecer o Go, um jogo de tabuleiro com 4000 anos. FERNANDO BASTO

Eventos

JOGO DO GO
Hoje e amanhã, pelas 10.30 horas, no foyer do Grande Auditório do Rivoli, realiza-se um campeonato nacional de jogo do Go. Trata-se de um jogo de tabuleiro com 4000 anos, considerado dos mais belos e cativantes pela sua profundidade estratégica.

—

YOKOSOO
Em japonês, quer dizer "bem-vindo". Durante os dias 25, 26 e 27, em horário ainda a confirmar, na Mui-Concept, no Centro Comercial Bombarda, haverá várias actividades, entre as quais uma cerimónia de chá e um atelier de origami.

—

SHIKARI E CALIGRAFIA
Um atelier de "shikari" (tingimento natural) recordará as técnicas usadas pelos antepassados japoneses. Decorre na galeria do Palácio de Cristal, de amanhã até quinta-feira. Naquele mesmo espaço e com o mesmo calendário, realiza-se uma exposição de caligrafia da Universidade de Waseda, em Tóquio.

Programação, Direcção de Produção: Alberto Magno | Produção Executiva: Fábrica de Movimentos | Apoio à Produção: Produtora de Risco | Apoios: DGArtes/MC, IYME - International Young Makers Exchange | Colaboração: Balleteatro, Hard Club, Contagiarte, Fundação de Serralves, Ginasiano, Aerowaves

Nesta sua 12ª edição, o Festival da Fábrica reinventa-se. Como entendemos que um festival é um corpo dinâmico cuja necessidade de renovação é constante, damos início a uma mudança que contaminará futuras edições. Em primeiro lugar e excepcionalmente (para garantir a sua regularidade), realiza-se em Novembro. Este ajuste permitiu colaborar com outros espaços culturais. Em segundo, porque aposta numa presença muito forte de novos artistas, mostrando obras recentes e pujantes de novas ideias.

21 A 25 NOV PORTO

JAPAN WEEK NO PORTO

中日新聞　2010年（平成22年）10月

「チンドン」世界に広める

西区のアマ団体「浜松花蝶ちん」

浜松市西区雄踏町のアマチュアちんどん屋「浜松花蝶ちん」が、十一月二十日からポルトガルのポルト市で始まる「第三十五回ジャパンウイーク2010・ポルトガル公演」に出演することになり、練習に励んでいる。海外公演は初めてで、メンバーらは「日本のチンドンを伝統芸として世界に広めてきたい」と意気込んでいる。（堀内孝義）

ポルトガルでの初の海外公演に向けて合同練習を繰り広げる「浜松花蝶ちん」の皆さん。中央手前は藤田團吉座長＝浜松市西区の雄踏文化センターで

来月、ポルトガル 初の海外公演に意欲

中日新聞／2010年10月4日

光華高・神楽和太鼓部 海外初公演へ

大蛇の舞 和の心

ポルトガル文化交流で

「迫力感じて」

京都新聞／2010年11月18日

和歌山のタップ披露

スタジオぼこ・あ・ぽこ ポルトガルの芸術祭典で

岩出市南大池のタップ教室のスタジオぼこ・あ・ぽこ（田中美和代表）はこのほど、ポルトガルのポルト市で開かれた日本文化の芸術祭典「第35回ジャパンウィーク2010」へ出場した。4年目の出場で和歌山にちなんだタップを堂々と公演。また、地元の舞踊学校の生徒らと互いのダンスを見せ合うなど異文化交流も深めた。

ジャパンウィークは年1回、世界舞台で日本文化を紹介するイベント。日本から約1500人が参加。リボリ劇場で行われた公演では、鉄砲伝来のポルトガルに合わせて「雑賀孫市」のタップなど3曲を発表。珍しい和製タップの演技に会場から大きな拍手が起こった。市庁舎で行われたオープニングレセプションには、はかま姿で出席し、ポルト市の市長から感謝状をもらった。

また、ポルトガル民族舞踊学校の生徒と踊りを通じて交流。地方ごとのダンスを堪能したり、家庭料理でもてなしてもらったお返しにと、折り紙教室を開き、鶴や紙風船などの折り方を教え、子どもたちに人気だった。

田中代表は「これまで4カ国回ってきて、ダンスは世界共通だなと感じた。町中で私たちの舞台を見てくれた人と会い、たまたま"駅長"も知っていて、偶然に感動した。来年も出場して多くの人に出会い、和歌山をPRしたいです」と話している。来年はドイツのフランクフルトで開催予定。

ポルトガルで交流するぽこ・あ・ぽこの皆さん

わかやま新報／2010年12月10日

開催時の現地の様子

編集後記

今回のジャパンウィーク®開催にあたり、ポルト市側関係者並びにポルトガル側実行委員会の日本・ポルトガル友好のための熱心な受入の協力に感謝申上げます。またジャパンウィーク®運営を支えてくれた、ポルガルにおいては在ポルトガル日本国大使館、そして日本においてはポルトガル政府観光局の皆様方に厚く御礼申上げます。昼夜を問わず共にこの運営に携わっていただいた現地コーディネーターそしてジャパンウィーク®の主旨にご賛同いただき、お忙しい中にも関らずボランティアを引き受けてくれた皆様方、そして有形無形でご支援いただいた関係者の方々のご協力なくして無事終了する事は出来ませんでした。ここに深く感謝申上げます。

また日本全国各地よりジャパンウィーク®の趣旨にご賛同いただき、ご参加いただき日本・ポルトガルでの草の根レベルの国際交流にご活躍された皆様方に厚く御礼申上げます。

真摯な相互理解・異文化理解の輪を広げて、世界が心一つになれることにジャパンウィーク®を通じて貢献できれば幸いです。

皆様方のご支援・ご協力を引続きお願い申し上げる次第です。

助　成　

財団法人　双日国際交流財団

主　催　

公益財団法人　国際親善協会

〒113-0034　東京都文京区湯島 1-9-4 鶴原ビル 3 階
TEL：03-5802-0351　FAX：03-5802-0353
E-mail　info@iffjapan.or.jp
URL　http://www.iffjapan.or.jp